
奥田民生を聴きながら

ごはんライス

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

奥田民生を聴きながら

【コード】

N6920D

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

自伝的な小説です。蛭川陽介というのはごはんライスの本名。引用した奥田民生の曲は、「恋のかけら」「さすらい」「春はまだか」「無限の風」です。

奥田民生に便乗した伝記です。蛭川陽介というのはごほんライスの本名。半分ノンフィクションです。つまり半分フィクション。民生ファンが読むと面白さ倍増！（やったー）民生ファンじゃない人が読むと面白さ半減！（しょぼーん）では、どうぞ。

蛭川陽介が大学生時代の話である。当時好きだった子が結婚してしまった。

蛭川は腹が立って剃刀かみそりをその子に送った。今で言うストーカーだね。

すると、何ということ！ 彼女が怒って蛭川に爆弾を送ってきた。要するに、まあ書かなくてもわかるか。つまり、手紙の封を開けると爆発する仕組みになっていたのだ。つまり、今で言うテロリズムだね。

蛭川は病院で生死の境をさまよっていた。そして、ついには半分ロボットになってしまったサイボーグ蛭川。警察に事情聴取されるもいかなせん真実が言えない。彼女のことをしゃべると剃刀を送ったことがバレる。

警察は「お大事に」と言って帰ってしまった。そんだけかよ！
どんだけ！

とにかく蛭川はむかつ腹が立ってたまらない。何とかして彼女を恐怖のどん底おとしに陥れたかった。

その夜、入院中のベッドで友人が差し入れしてくれた奥田民生のCDを聴いていた。

木のかげで泣いている 美しい人の悲しい姿

彼女のつらいわけなど きつと僕にはわからないので

「恋のかけら」というミディアムテンポのロッククラブソングである。

これを聴きながら蛭川は名案が思い浮んだ。

木のかげに誘い出して犯してやるう！

蛭川は病院を抜け出し彼女に電話した。

木のかげで二人は会った。

「もう蛭川くん。いいかげんにして。あたしダーリンとラブラブなんだからジャマしないでちよーだい」

「ひっひっひ。香里ちゃん。のこのこ出てきたお前さんが悪いんですぜ。きつきつき」

蛭川は若妻に襲いかかった。

すると、女は「きゃー」と叫び、蛭川のキヤタピラを蹴飛ばした。

すると、キヤタピラが外れてすつとんでいってしまった。

なんとという欠陥品！

あの医者、手え抜きやがったな・・・

蛭川はバランスを崩し、木のかげにあった階段を転げまわった。

「わああああああああああああああああ」

そのまま九十九段の階段を転げまわりその先を走っていたダンブカーにはねられ銭湯の煙突にゲキトツし、蛭川はまたしても入院してしまった。

友人が大学の講義ノートと奥田民生のCDを持ってきてくれた。他にすることがないので聴いてみた。

さすらいもしないで このまま死なねえぞ

「さすらい」という、ギターの音色が美しい曲だ。蛭川は興奮した。

「香里ちゃんを犯すまで、このまま死なねえぞ！」

彼女はすでに引越していた。年賀状には子供の写真。くっそー。自分だけ幸せになりやがって腹が立つ！

海を渡り、彼女の家まで行った。めっちゃ遠い。なんで旦那、海外赴任すんねん。

道の途中で外人の警官にポコポコにされた。カネがなくなったので、店先の物を勝手に食つてたからだ。ちきしょう。香里の住所を言つて引き取つてもらった。

「よっくん。大丈夫だった？」

「君が蛭川くんか。香里から聞いてるよ。サイボーグなんだって？」
「ふっふっふ。その通りさ、旦那さん。この胸から飛び出すミサイルでこの幸せな家庭を地獄の三丁目に叩き落としてやる！」

とその時、幼い香里の息子が這い這いしながら「わーロボ、ロボー」と言つて蛭川に近づいてきた。

「あ。たけしがしゃべった」

「ほんと。ロボって」

たけしは蛭川の胸を触ってきた。

「あ。コラ。いかん。やめろ。このガキ」

「ふふふ。よっくんは子供に好かれるね」

蛭川は、やばいやばいと思つていた。胸には自爆ボタンがあるのだ。今で言う自爆テロだね。

案の定、たけしがボタンを押した。

ずがどおおおおおおおおおおおおおおおおおおん。

自爆装置は文字通り自爆装置でボディの内側で爆発する仕組みになつている。だから、たけしは無傷だった。

その代わり、蛭川は動作不能になつて止まってしまった。目が白い。よだれを垂らしてる。

「よっくん？ よっくん？」

「こりゃいかん。香里。救急車だ！」

「けらけらけら」

たけしはそれを見て無邪気に笑つていた。

帰国した蛭川はまたしても病院の上で憂鬱に過ごしていた。あまりに入院が長かったので同級生はみな卒業していた。

「ちきしょう。もうこりこりだ」

そんな時、また友人が差し入れにフルーツと、今度は、ダウンタウンの浜ちゃんのCDを持ってきてくれた。「春はまだか」という曲で奥田民生が作詞作曲編曲をしてる。

宇宙の地球の小さな国のどこかで

一人の男が はるかな何かを作るのでしよう

蛭川はまたしても感動してしまった。その夜は何度も何度もそのCDを聴いた。

「くそぞ。簡単にあきらめるところだった。ようし。こつなつたら、ものすごい核兵器を作って今度こそ香里ファミリーをぶつとばしてやる」

蛭川は退院してから、実家に引きこもり、両親には内緒で割り箸やペットボトルを買ってきて核兵器作りに没頭した。

しかしなかなか製作がはかどらない。輪ゴムの止め方が悪いのだろうか？

一回、国連が視察に来たのであわてて隠した。

やばい。きつとアメリカ政府にはバレてる。何しろ今でさえ家の前を数十人のCIAがウロウロしてる。

「くそぞ。うつつとうしい」

公衆便所で用を足してる時も尾行してきやがる。このストーカーども！

そんな折り、香里の旦那さんから一通の手紙が。

その文面は悲しみに満ちていた。香里が死んだらしい。何でも、息子が拳銃で遊んでたらうっかり発砲してしまったのだそうだ。香里が引越した国では銃保持がオツケーなのだ。

蛭川は奈落の底に叩き落とされた。何てことだ。殺そうとしてる相手が死んでしまふとは。オレは一体これから何を生きがいに生きていけばいいと言うのだ！

蛭川はやけになつて飛行機をハイジャックしニューヨークの世界貿易センタービルに突っ込んだ。

蛭川は直前にパラシュートで脱出したので助かったが、その後、アメリカが怒つてイラクを攻撃し、たくさんの子供たちが死んだ。

蛭川はやりきれない。刑務所から出た後、罪滅ぼしに塾のバイトを始めた。子供たちの笑顔を取り戻さねばならない。それが香里ちゃんへの弔いになると思ったからだ。

そう信じてやってきたら、気づけば、数年があつという間に過ぎ三十路の童貞アルバイト。年収150万円。死ぬか生きるかの生活をしてる。

何でこんなことになつてしまったのか。となれば、やはり、小説のせいだ。小説を書いて子供たちを元気にさせたい。その想いが強くこのような過酷な生活に突入したのであろう。

その生活は今でも続いている。

蛭川の最近のお気に入りの曲は奥田民生の新曲「無限の風」だ。

荒野の上に立つて 砂漠の上に立つて

花のように開いて ダイヤのようにまたたいて

荒野の風になつて 砂漠の風になつて

はるかに腕を伸ばして 空に叫ぶのさ

あいつは風 あいつが風 リズムを取りながら 太陽を背負つて

蛭川の名前は陽介。しかも日本人。背負え日の丸を太陽を。闇の狭間で。

子供たちの幸せなしにオレの幸せはない。何。臭い？ 臭くてもいいんじゃない！（了）

奥田民生を聴きながら

(後書き)

終わりの方が非常にくだらない。蛭川さんていい人だなあでまとめようとしとる。確かに蛭川さんはいいい人。でも、ライスさんは恐ろしくバカ。こっちが真実のオレ。いい人なんてくそくらえ。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6920d/>

奥田民生を聴きながら

2009年3月24日11時21分発行